



中国荣成法華院

蜊江中学校 二年生
黄诗妤 畢英楠 賀祥潤



内容



地理

1

歴史

2

観光地紹介

3

アクセス

4

1. 地理



赤山法華院は中国山東省榮成市石島鎮北部の赤山の南に位置し、唐に建設され、中日韓3カ国の国民友情を結ぶ仏教寺院である。

2. 歴史



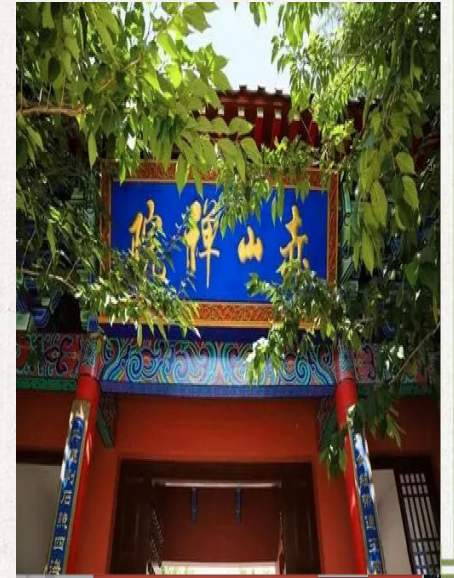
史料によると、赤山法華院は唐代の新羅出身の張保皋によって建てられました。張保皋(790~846)新羅出身。幼い頃、張保高は銃や棒で踊るのが好きで、水泳が得意で、荒々しく大胆な性格でした。807年(唐顯宗の元和2年)、友人の鄭年とともに唐に入り、同年9月に武寧軍に入隊し、高い武術と勇敢さ、優れた戦闘技術により、戦功を重ね、819年(元和13年)に呉寧軍の小将を抜擢された。824年、赤山埔に来て、赤山(現在の石島湾)に赤山法華院を建立しました。





赤山禪院は、改革開放後、中日両国人民の友情も深まっています。1980年、ある日本人が日本版“入唐求法巡礼行記”を持って中国に法華院を探しに来た。栄成人は赤山法華院を探し始め、中日の友情が現しています。

1987年、栄成市の政府部門は“入唐求法巡礼行記”の記載によって、紆余曲折でついに赤山法華院の遺跡を考証し、遺跡に赤山法華院を建て直しました。2002年、赤山観光地にも中国の“赤山禪院”が建てられ、円仁法師が日本に建てた“赤山禪院”に呼応しました。



円仁法師について



日本仏教天台宗山門派の創始者。838年入唐求法。赤山法華院に2年9ヵ月に3回に客居して、当時の唐の政治、文化、経済、宗教などの多くの知識を理解し、求法ができました。

帰国後、円仁法師は中国に来た大きな収穫を忘れず、“入唐求法巡礼行記”を編著し、赤山法華院のことを詳しく描写しており(東方三大旅行記の一つと呼ばれている)、赤山法華院の名を国内外に有名になりました。また、赤山の人々の厚意に感謝するために、円仁法師は弟子に日本の京都小野山に赤山の名で“赤山禅院”を建設された。

3. 観光地紹介

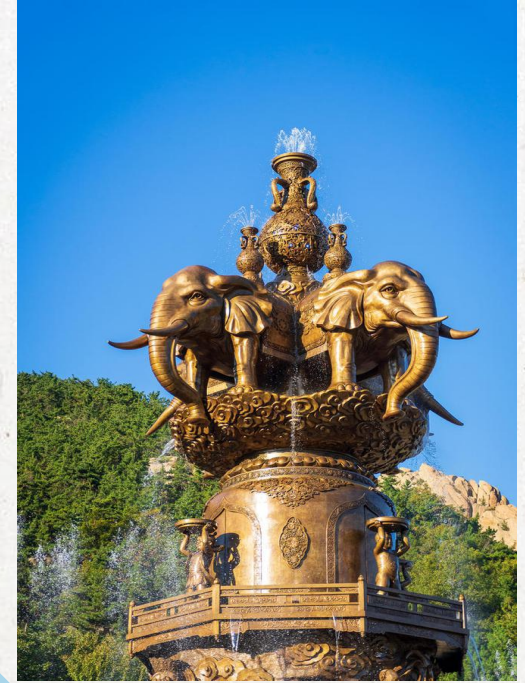
石島赤山法華は中国のAAAA級観光地です。現在威海で唯一の仏教寺院である石島赤山法華院、世界最大規模の観音噴水広場—極楽菩薩界、世界最大の鍛銅神像—赤山明仏(大明聖境)、膠東の歴史変遷事象を反映した民俗博物館—栄成民俗館、北方に設立された最初のママ祖廟—天后宮、赤山禅院、法華塔、張保皋伝記館、民間芸術館、天門潭などの10大観光スポットで構築されます。そして、珍しい自然奇観—仰天大仏、森林公園、海上遊園地、海水浴場、鳳凰湖、漁村などつながっており、山海の景色を観光し、海島民俗を体験し、生態レジャーを楽しむ桃源郷です。





噴水広場は音楽と水の大型音楽噴水ショーです。遠くから見ますと、円柱形の壮観な彫刻がぼんやりと見え、周囲には形の異なる小さな彫刻が囲まれております。

近づいてみると、上部には四匹の象の背に宝瓶があり、彼らは頭を上げて守り、高いところにそびえ立って遠くを眺めていました。弧形スタンドの東西両側には、不老松、ニホンジカなどの彫刻が立っており吉祥、平安、福祿、長寿の美しい願いを象徴している。





中日友好記念碑は主に日本の円仁法師一行が唐求法に入り、苦難を経た後、唐の政治、文化、経済、宗教など多くの知識を知ることができました。帰国後、円仁法師が編著した“入唐求法巡礼行記”には、赤山法華院について詳しく描かれています。また、赤山の人々の厚意に感謝するために、円仁法師はその弟子が日本の京都小野山に赤山の名で“赤山禅院”を建設されました。



円仁入唐求法館は、円仁大唐求法の9年余り、三度赤山に赴き、前後2年5ヵ月間住んでおり、想像もつかない困難な行程と言いきれない物語を残し、中日韓の3カ国の友情を残し、後世に無限の思いを残しました。



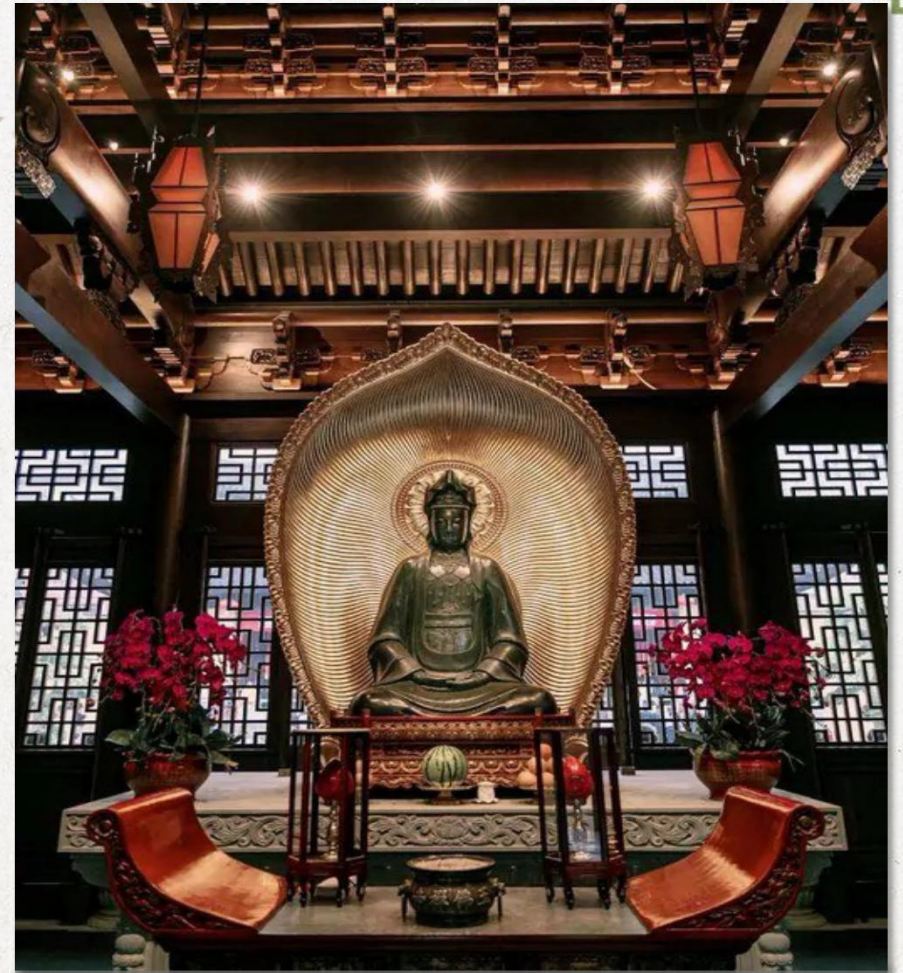
大雄宝殿は法華院の主体建築で、それは山の面に沿って南に座って、殿内の真ん中に仏祖釈迦牟尼塑像があり、形が生き生きしていて、彫刻が精巧で、全国政協副主席、全国仏教協会会長の趙朴初先生は大殿と題して“大雄宝殿”の4つの大字である。





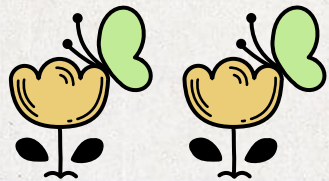
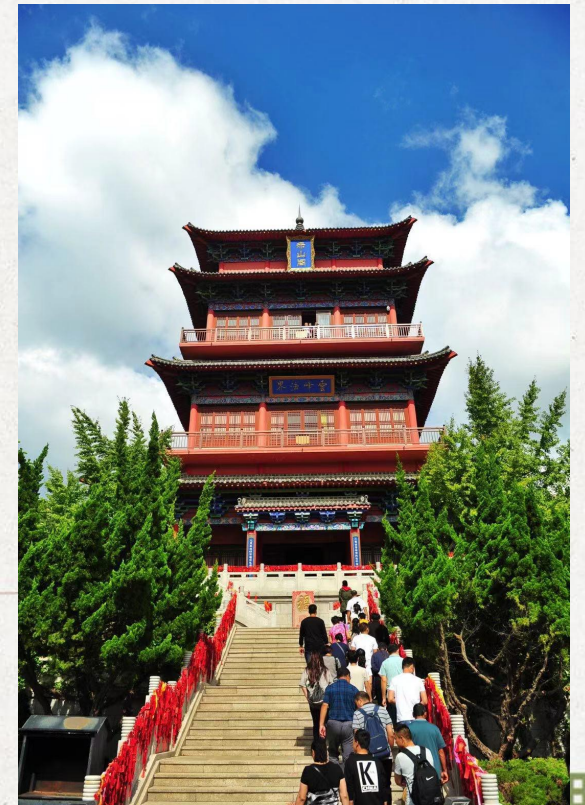
観音殿は観音を主尊とする仏寺の殿堂で、観音殿と呼ばれ、“大悲壇”とも呼ばれています。観世音は西洋極楽世界の上首菩薩であり、すべての仏の慈悲心、大悲心を表現し、世を救う最も切実な者であるため、“大悲壇”と呼ばれています。

観音殿の左右側には、竜女と善財童子がいました。北側には韓国の有名な画家に描かれた張保皋が武寧小將装束を着た巨大な画像が掲げられており、張保皋さんは韓国国民の心の中で高い民族威信を持っており、民族英雄と海上貿易家と呼ばれ、毎年多くの韓国人客が巡礼に来ています。法華院の建設に貢献もあり、張保皋さんはこの人々から尊敬されています。殿内南壁に掲げられているのは“慈覚大師山東遍路図碑”であり、非常に高い史学価値を持っています。





法華塔は赤山法華院鎮寺の塔で、塔の高さは48メートルで、八角七級唐式建築スタイルである。赤山禪院の北西側に位置していて、観光地のどこからでも見えます。高いところに登って遠くを見て、山と海がつながって、赤山の全景が一望できて、とても雄大です。



赤山明神銅像は、赤山の麓に、遠くから銅像が見えます。これが有名な赤山明神銅像です。“赤山明神”銅像は広大な黄海に向かい、勇壮で威武しており、明神の足元に願い事をする
と特に靈驗あらたかで、多くの善男信女がここに願い事をしに来ます。



荣成民俗馆：敷地6000平方メートル、建築面積2500平方メートル、山海耕牧、都市と農村の情韻、劳逸人生の3大展示室と6つの展示区を設置しました。





張保皋伝記館の敷地は1.3万平方メートルで、5つの展示室と1つのレジャーホールが設置されています。



4. 交通情報

中国栄成赤山法華院は石島港から4キロ、威海空港から40キロ、威海市中心から80キロです。

観光客は栄成駅で乗車して、栄成バス263番に乗って[石島新バス停]で降ります。305番バスに乗り換えて[赤山観光地駅]で降りて、2キロの距離で歩いて行けます。





ご清聴、ありがとうございました。